

私は、毎日の活動の中で、あきる野市の色々な「森」を訪ね、たくさんの生物とふれあっています。環境によつてその場で見られる生物が変わりますので、どんな生き物がいるのかを確かめに行くのはとても楽しいことです。5月中旬ころ、なかなか出会える機会の少ないシロマダラを山で見つけて感動しました。シロマダラは小型の蛇で、背面は



灰色か白色で黒い横帯が縞状に入ったとてもきれいで印象的な蛇です。夜行性ですので、個体数や生息場所がはっきりしないことが多くあり、また、活動する時

間帯は温度や湿度などに関係するとのこと。このシロマダラは東京都、神奈川県では最も絶滅の危惧度が高い生物の一種となっています。

また、先ごろ地域に生息するトウキョウサンショウウオの卵のうとオタマジャクシを観察しました。今年はまだもう産卵期が終わりましたが、オタマジャクシの動きを確認することはまだできません。絶滅の危機にさらされているトウキョウサンショウウオは、関東地方の狭い範囲で多様な自然が残されている里山の環境で生息します。

さらに、見つかる自然の恵みは生物だけではなく、人間が作った物でも色々あります。たとえば、養沢神社と上高岩山を結ぶサルギ尾根の途中では、およそ50年前に使われていた炭焼きの跡を地元の方に見せていただきました。今もほとんどそのままの形で残されています。こんなハードなルートの中で使っていた人々はどんな生活をしたのだらうか、とても大変な毎日であつたらうと思えました。

森林レンジャーあきる野
パブロ アパリシオ